

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年6月5日(水) 9:30~11:30
- 3 開催場所 恵那高等学校 会議室
- 4 参加者
会長 伊藤 勝彦 恵那市議会議員 元恵那東中学校長
副会長 鎌田 基予子 元恵那市教育委員
委員 秋山 浩司 本校100周年記念事業副実行委員長
阿部 伸一郎 東海神栄電子工業代表取締役社長
新井 麻美 本校同窓会長 セントラル建設(株)社長
岡田 庄二 恵那くらしビジネスサポートセンター
西尾 英憲 恵那市教育長
原 真一郎 恵那市立恵那東中学校長
P T A会長
蜂谷 明子 蜂谷医院医師(欠席)
本多 京子 本校卒業生

岐阜県教育委員会 高校教育課 服部一也 指導主事

学校側	森岡 孝文	校長
	酒井 里美	事務部長
	高橋 廣和	教頭
	粥川 責也	教務主任
	渡瀬 佳吾	生徒指導主事
	林 正幹	進路指導主事
	石原 泰三	保健主事
	工藤 志栄	探究企画部長
	佐々木 俊哉	探究理数科部長
	後藤 和世	研修主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業参観・施設見学

- ・生徒が授業に取り組む姿勢や ICT 機器を活用する様子や問題演習等に取り組む姿を見ていただいた。

(2) 令和6年度学校経営計画について

- ①学校経営②教務部（含む研修部）③生徒指導部④進路指導部⑤保健厚生部⑥探究企画部
⑦探究理数科部

・地域の本校に対する期待や、「次の100年」に向けた本校の教育活動について今年度の学校経営計画について説明を行った。

(3) 意見交換

意見1：恵那高校の取組みは大変完成度が高い。これも日々改善を重ねた結果である。

SSHの「課題研究」のテーマが生徒の進路・キャリア・人生の核になっている。

生き方我が道のテーマ設定・探究が社会課題の解決につながっている

意見2：「受験体験記」の生徒の言葉が恵那高校の取組みの成果をよく表している。

探究活動の中でこの地域の経済や観光、人的交流について取り組んでもらいたい。

私もその探究に助力したい

⇒地域の取組に参加した経験を持つ卒業生にも助言をいただき、その視点からの話を聞くことで、参加する生徒の視野を広げる効果があるのではないかと考えている。

意見3：先日の創立記念講演会に参加しました。生徒の表情やまなざしに変化していく様子を見ました。探究が恵那高校の文化になりつつあると感じた。

一方で恵那高校の取組みが教職員の負担増につながっているのではないか。外部人材や生成AIの活用を検討するとよい。

⇒普通科の「総合的な探究の時間」では講演会などで地域の職業人や専門家に依頼している。生成AIの活用については、生徒の利用も含め今後の課題である。

意見4：生徒が自分の目標を言葉にでき、それを支える力がこの地域にはある。生徒の探究と外部の専門家を結びつけるシステムの構築が課題である。

⇒100周年を機に同窓会に設置された「ふるさとキャリア支援室」との連携を検討する。

意見5：恵那高校の生徒の様子を見て、学びの体力が身につけていると感じた。一方中学生は「あきらめない力」の醸成が課題である。入学当初に学習をサポートする取組みは大変よい。

⇒恵那高校においても中高の接続に課題意識をもって取り組んでいる。特に今年度1年生入学後10日間Ena School Time (EST)を時間割に組み込んで、学習の仕方などをグループで取り組む時間を持ち、高校生活への適応を促す取組みを行った。来年度以降もその取組みをさらに改善していく。

意見6：「授業と探究の往還」に注目する。その取組みが形になっていくことに期待する。

6 会議のまとめ

- ・全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・スクールミッションの策定を通して恵那高校のあり方を再定義し、スクールポリシーの改定にも取り組む。
- ・生徒の探究活動をさらに充実させ教員の負担を軽減させるためにも、外部人材の活用をさらに促進する方策を検討する。
- ・余裕をもって生徒たちに接する教員を目指して、働き方改革をさらに推進する。